

中山間地域における地域組織の変容からみた組織コミュニティ特性について

- 縮減化社会におけるホスピス型地域づくりに関する研究 (その2) -

限界集落 ホスピス 農村計画 高齢者

正会員 ○ 谷口 弘和*
同 王 詩韻*
同 奥本 裕美子**
同 横山 俊祐***
同 徳尾野 徹****

1. はじめに

その2では、かつらぎ町を除く6集落を事例として、中山間地域において地域内にある既存の自治会組織や教育施設(以下、地域組織)の変容を把握し、活動の変化からどのような縮減型組織コミュニティが形成されたのかを解明する。その中で、こうした活動がホスピス型地域づくりを行う上で、どのような意味を持ったのかを住民・行政関係者に行ったヒアリングを通して考察する。調査対象地・調査方法についてはその1に示す通りである。

2. 自治会組織の変容

縮減化による自治会組織の変容を表1に示す。

① 婦人会・青年会

人口減少・高齢化によって、活動が維持できなくなっており<1><2><9><14>、全ての地域で消滅・縮小している。このため、かつては地域行事の担い手であったが<15><19><22>、現在では活動を他組織に委託し<10><23>、活動が沈静化している。しかし、活動を交流の場として評価し、他地区との連携や参加できる枠を広げ<11><20>、活動を維持しようとしている。

② 老人会

高齢化によって参加人数・余暇時間の増加により<4><6><12><23>、全ての地域で拡大している。また地区

表1: 自治会組織活動の変容

<p>龍神村</p> <p><1> 婦人会は目立った活動がなく、若い人が入らないから人数は減る一方で、自然と無くなった。 <2> 青年会はあるが、人は少ない。昔は多かったけども。 <3> 老人会は文化祭とか村民運動会に参加し、子供に色々教えたりと最近ではしている。</p> <p>天川村</p> <p><4> 婦人会は無くなってしまったが、今は老人会に入っている。 <5> 老人会は天川全体の組織なのでゲートボールも色んな地区で行い、友達が増えた。 <6> 年寄りが多いから集まりやすい。 <7> 老人会の活動で良いことは奉仕活動。ゴミ拾いなどの地域の清掃活動を行う。 <8> 地区行事では、それぞれがお餅つき・牡丹汁・コーヒーなど老人会の中で分かれて活動する。</p> <p>下北山村</p> <p><9> 若い人がいなくなり、婦人会はもう6.7人くらい。ほんとに少なくなった。 <10> 婦人会の全盛期は行事で餅つきをしていたが今は業者に頼む。現在の活動は定期的に掃除するくらい。 <11> 婦人会も一つのコミュニケーションなので、途切れないように地区で連携している。 <12> みんな高齢者になってきて老人会は活性化している。公民館で毎週サロンを開いている。 <13> 老人会は、他の地区との交流もある。行事があるときは他地区の老人会に手伝いにきてもらう。</p> <p>黒滝村</p> <p><14> 10年前に団体としての活動が難しく婦人会・青年会共に自然と無くなった。 <15> 婦人会があるときは、文化祭・夏祭りの準備を行い、活況に活動していた。世代間交流も行われていた。 <16> 老人会は、65歳になったら全員入ります。村の中で人数が一番多く、地域組織になってますね。 <17> 旅行・グラウンドゴルフなど老人会の中でもクラブに分かれて活動している。 <18> 学校の草刈り等の掃除も行う。学校の行事や文化祭などにも老人会は参加している。</p> <p>北山村</p> <p><19> 昔が祭りの手伝いをしていて、代わりして婦人会は無くなった。 <20> 青年会は活動を停止していたが、現在は女性も加わり活動している。行事には家族総出で参加している。 <21> 青年会の行事に参加して老人会は活況に活動している。両組織が連携している。</p> <p>上北山村</p> <p><22> 婦人会が活況な頃は、運動会などの行事に参加していた。 <23> 婦人会は無くなったが老人会に参加している。 <24> 青年会が行っていた伝統的な行事有志会が続けてくれている。 <25> お掃除したり、学校の行事に参加して集落の中で一番活躍しています。 <26> 文化祭等には老人会に必ず声がかかる。人がいないから老人が必ず行かなければならない。</p>

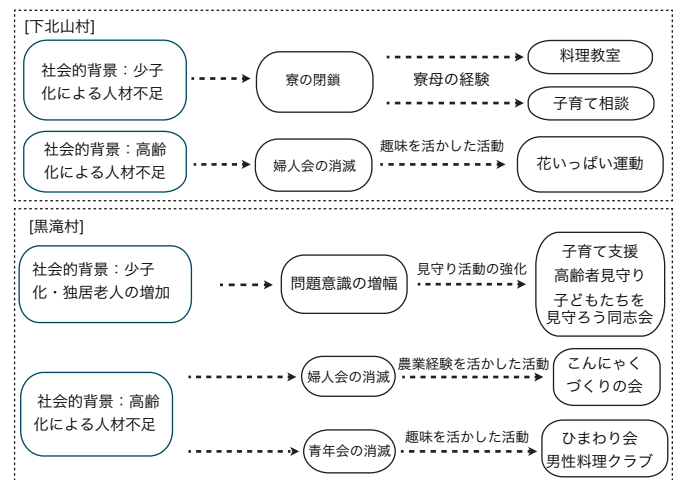
間で連携をとって<5><13><21>、活動範囲を広げている。地域内で一大組織となり<16><25>、活動が細分化されている地域<17>もあり、活動が活況化している。そのため、かつては婦人会・青年会が行っていた活動を老人会が行い<3><7><18>、地域行事の担い手となっている<8><26>。

3. 縮減化による新たな活動組織の形成過程

縮減する中で、地域内に新たな活動組織が形成されている。その活動内容を表2に形成過程を図1に示す。形成背景はどの活動組織も過疎による少子高齢化を起因としている。さらに、全活動組織共通して、過去の経験や趣味を活かした活動を通して地域を豊かにしようとする特性があるが、形成過程はそれぞれ異なり、地域組織が消滅して形成された組織(1)(2)、自治会組織とは関係なく住民の自発的な活動によって形成された組織(3)(4)、老人会が拡大して形成された組織(5)(6)(7)の三つがある。このような多様な活動組織が形成された理由として、自治会組織と比べ活動内容が明確であること・少人数から始められる内容であることの2点が挙げられる。

表2: 新たな活動組織の活動内容

<p>下北山村</p> <p>(1)花いっぱい運動: 学校や地域内に花を植えて、地域を華やかにする活動 (2)子育て支援・料理教室: 地域内の若い女性を集めて、寮母さんが料理・育児を教える活動</p> <p>黒滝村</p> <p>(3)子育て支援・高齢者見守り: 問題意識の高い住民が集まって子育て世代の独居老人に声をかける活動 (4)子供たちを見守ろうの会: グラウンドの草刈りなどの学校を整備する活動 (5)こんにやくづくりの会: 道の駅にて、住民が作った野菜やこんにやくなど販売する活動 (6)ひまわり会: 老人と若い人が集まり、独居老人に手料理を配達したり、芝居を披露する活動 (7)男性料理クラブ: 男性高齢者が集まって料理を作る活動</p>
--



About the Organization Community Characteristics through the Transformation of Community Organizations in the Hilly and Mountainous Areas
-Study on Community Improvement of the Hospice Type in the Depopulated Villages-

TANIGUCHI Hirokazu, OKUMOTO Yumiko
WANG Shihyun, YOKOYAMA Syunsuke, TOKUONO Tetsu

4. 組織コミュニティ特性の変容パターン

地域組織の変容を基に、地域で主に活動している組織（以下、核組織）の数・組織規模・組織間連携の変化、学校行事・地域行事への参加度合いから、縮減型コミュニティを図2に示し、組織コミュニティ特性を多極型・一極型・並列型の三パターンに分類する。それぞれの組織コミュニティ特性から共通して言えることは、継続的かつ多くの住民が参加する学校行事・地域行事をきっかけとして、組織間での連携が促進されていることである。

① ネットワーク型（北山村・黒滝村）

地区内で核組織が分散し、それぞれが対等に存在して連携している。このような特性になった要因として、核組織が縮減し、連携することで活動を成り立たせているため（北山村）とそれぞれが活発であるため（黒滝村）とそれぞれ異なるが、どちらも組織間で連携が密であり、学校行事・地域行事行われる時だけでなく、日常的に連携できる。

② 一極型（天川村）

地域内に核組織が一つ存在し、他組織の活動や学校行事・地域行事をサポートしている。これは、核となる組織が縮減化した組織の活動を集約しているからである。これにより、組織に所属している住民同士の情報伝達に優れ、人手も多いため他の組織と連携せずとも核組織内で新たな活動を創出でき、住民が重層的に活動が行える。

③ 並列型（龍神村・上北山村・下北山村）

地区内にある核組織の役割が分担されており、連携はみられないが、それぞれが学校行事・地域行事に参加するこ

とで間接的に連携している。これは、郵便局・商店での個人的な付き合いから、多世代・他組織間の交流が生まれており、住民同士の関係性が組織にとらわれていないからである。このため、住民は自らの判断で活動に参加できる。

5. まとめ

本稿では、中山間地域において、縮減化する過程での既存の地域組織の変容・新たな活動組織の実態を把握し、それらの関係性から地域ごとにどのような組織コミュニティが形成されているかを解明した。それらからネットワーク型・一極型・並列型の三つに分類しその特性を考察した。これをふまえ、ホスピス型地域づくりを進めて行く上で、地域組織の在り方に関して1) 参加人数・参加属性を規定せず、柔軟な組織体制にすること2) 活動目的を明確化し、住民が参加しやすくすること3) 活動内容を細分化し、組織の選択性を持たせることの3点が重要である。そして、それらの地域組織で連携して良好な組織コミュニティを形成する場合、4) 組織間で活動を補完しあい、地域全体で密なネットワークを築くこと5) 住民が複数の組織に属し、情報を共有しながら多くの役割をもつこと6) 学校行事・地域行事の特別な時だけでなく、交流の場を郵便局や商店など日常の暮らしから交流を持つことの3点が必要である。しかし、これらの考察は、組織活動という一側面からのみの考察であり、場所性という観点からは考察されていない。よって今後は、地域形状・人口規模・地域面積・地域産業などの地域それぞれの特性を読み取り、他地域との比較・検討を行うことで、その場所で最期迎えるという「ホスピス」本来の意義を見いだせると考える。

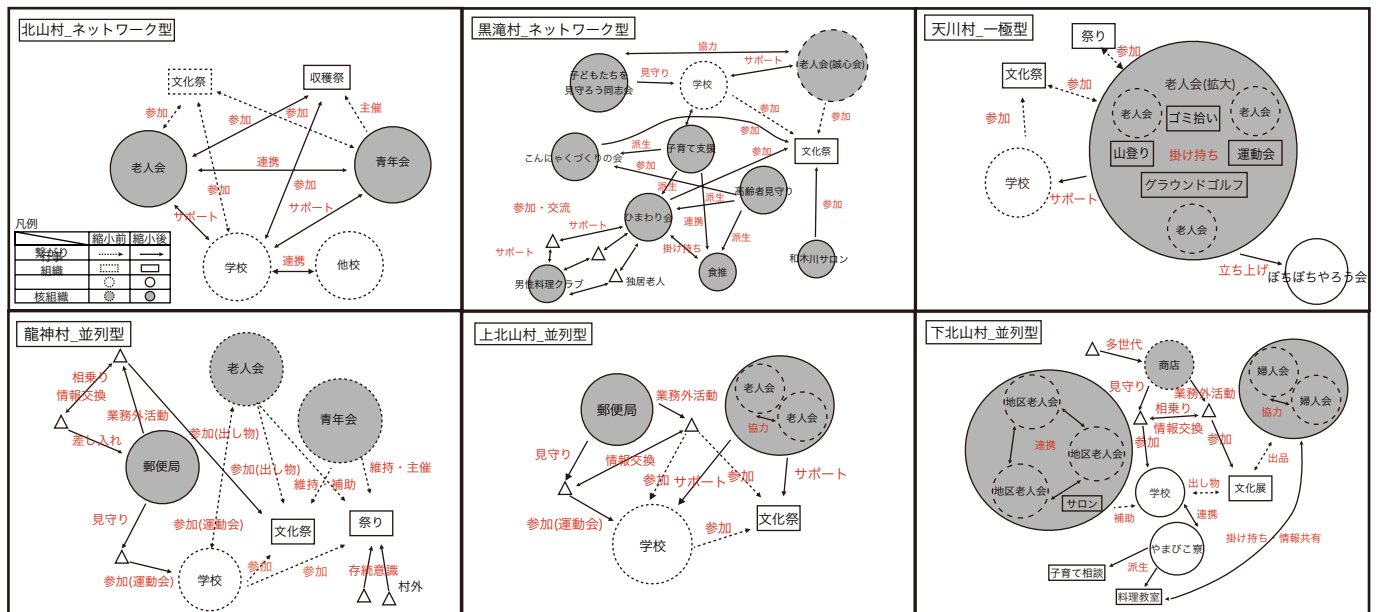


図2: コミュニティ特性のパターン

* 大阪市立大学大学院工学研究科 前期博士課程
 ** コスモスイニシア
 *** 大阪市立大学大学院工学研究科 教授・工博
 **** 大阪市立大学大学院工学研究科 准教授・工博

* Master Course, Graduate School of Engineering, Osaka City University.
 ** COSMOS INITIA Co., Ltd.
 *** Prof., Graduate School of Engineering, Osaka City University, Dr. Eng.
 **** Assoc. Prof., Graduate School of Engineering, Osaka City University, Dr.